

御所ことば語彙の調査研究 (I 食物の部)

井 之 口 有 一
中 井 和 子
堀 井 令 以 知

は し が き (§ 169)

本稿は御所ことば(いわゆる女房詞)を究明して位相語研究に資するために、従来の女房詞文献所掲のもの (§ 13) と「御湯殿の上の日記」(「ゆどの」と略称)・尼門跡日記・静寛院宮日記(「静」と略称)中のもの、さらに尼門跡において現用されている御所ことば(大聖寺は「大聖」、宝鏡寺は「宝鏡」と略称)などの調査研究を収録したものである。

ここに収めた女房詞文献とその略称は、海人藻芥 (§ 14, 「海人」と略称, 1420年), 大上藤御名之事 (§ 15, 「大上」, 1435~1490年ごろ), 日葡辞書 (§ 16-1, 「日ポ」, 1603年), 女重宝記 (§ 17, 「女重」, 1692年), 女中言葉 (§ 18, 「女中」, 1712年), 女言葉 (§ 19, 「女言」, 1722年), 女中詞 (§ 20, 「女詞」, 1722年ごろか), 貞丈雑記 (§ 153-1, 「貞丈」, 1763年), 草むすび (§ 22, 「草」, 1715~1771年ごろか), 女諸礼綾錦 (§ 23, 「女礼」, 1796年), 女万宝操鑑 (§ 24, 「女万」, 1801年), 公家言葉集存 (§ 25, 「公家」, 1944年), 女官 (§ 153-2, 1949年) で、これらを年代順に配列した。御湯殿の上の日記は、主として文明(「文」と略称)14年・天正7年・慶長(「慶」)3年・貞享(「貞」)3年, 尼門跡日記は大聖寺日記 (§ 103・106, 「大聖日記」)・宝鏡寺日記 (§ 106・163, 「宝鏡日記」) のそれぞれ万治3年のものである。

語彙の配列は、たとえば食物は 1. 主食(米・御飯・餅・麺類), 2. 副食物(総称・豆類・野菜類・漬物類・魚貝鳥獸), 3. 調味料(味噌・醤油・塩), 4. 嗜好品(酒・茶・たばこ), 5. 菓子・果物, 6. その他のように分類し、その各項目中の語は五十音順にした。さらに、本稿の末尾に「五十音順索引」を付した。

なお(例)は文例,(解)は解説,(同)は同義語,(関)は関係語の略称であり、また § は拙著「尼門跡の言語生活の調査研究」と通し番号を付けて用いた。

この研究に、特に有益な助言を賜った大聖寺門跡石野慈栄様・宝鏡寺門跡花山院慈薫様・是沢恭三博士・江馬務教授・榎垣実教授・池上禎造教授・山本キヨ助教授に感謝の意を表する。

(本研究は昭和33年度文部省科学研究費交付金「各個研究」によるものの一部である。なお本稿に対し、) お気付きの点は筆者井之口有一:京都市北区紫野南舟岡84-24まで御高教に預りたい。

1. 主 食(米・御飯・餅・麺類) (§ 170)

1 あかのおばん 小豆ご飯 [大聖] (例) 御前, あかのおばんをあがらしやりますか。

- 〔大聖〕 (同) 2 **あかねのめし**〔女中・女詞〕 3 **おあかのめし**〔女言〕
- 4 **あさがお** ふ(駄)〔女重・女言・女詞・女万〕 (解) 太陽や火にあたると萎むのが、朝顔の花に似ているので、この名が付いたか。(同) 5 **ふのやき**〔女重・女言・女詞・女万〕 6 **ふなやき**〔女中〕
- 7 **あゆのすもじ** 鮎鮓〔ゆどの〕 (例) おはり中納言よりあゆのすもじしん上。〔ゆどの貞 3・6・25〕
- 8 **あわのはん** 粟飯〔ゆどの〕 (例) 北ばたけよりあわのはんまいる。〔ゆどの女 14・4・29〕
- 9 **うきうき** すすり団子〔女中〕 (303 参照) (同) 10 **うきふ**〔女中〕
- 11 **うちまき** 米〔ゆどの・日ボ・女重・女中・女詞・草・女礼・女万・公家・女官・大聖・宝鏡〕 (例) なかはしよりあたらしきうちまきまいる。〔ゆどの慶 3・6・19〕 うちまきの配給です。〔大聖〕 (解) 施し米として米をまく。それから米をうちまきという。今でも神社では米をまくことは多い。(散米・打ちまき米・花米) (同) 12 **およね**〔大上・静・公家・大聖・宝鏡〕 (解) うちまきよりおよねの方が上品〔大聖寺談〕 (関) 13 **あらいよね**(洗米)〔大聖日記・宝鏡日記〕 (例) 御かうじん様の御なで物御あらいよねまいらせられ候。〔宝鏡日記万治 3・3・1〕
- 14 **おくま**(お供米)〔ゆどの・宝鏡日記・静・公〕 (例) ないしところへおくままいる。(ゆどの慶 3・6・15) 15 **おはつお**(お初穂)〔ゆどの、(例) ないし所へ御はつほまいる。(ゆどの慶 3・4・23)〕
- 16 **おあさのもの** 朝, 天皇が召上る餅〔公家〕
- 17 **おうわゆ** おもゆ〔静〕(同) 18 **おねばりのおうわゆ**(関) 29 **おしたまじりのおうわゆ**〔静〕(米粒のまじった重湯)
- 19 **おかちのめし** 麦飯〔女中・女言・女詞〕 (同) 20 **むもじのしょく**〔女言〕
- 21 **おかがみ** 鏡餅〔女中・女言・女詞〕 (同) 22 **おそなえ**〔女中・女言・静〕 23 **おしとぎ**〔女中・女言・女詞〕 (お粢は供餅, 和名抄・十三に「粢餅之度岐祭餅也」とあり, 宍岐方言ではオンドリという) (関) 24 **おげんじょ**(亥の子の餅)〔女言・静, 亥猪にもとづく〕 25 **ささべ**(7月7日に供える餅)〔貞丈〕 26 **はがためもち**(歯固め祝いに使う餅)〔女詞〕
- 27 **おかゆ** お粥〔大上・ゆどの・静〕 (例) 御かゆにてくわしまいる。〔慶 3・2・27〕 (解) 1月15日にお粥進上。12月8日には, あしたのものにうんざうがゆを供した。(後水尾院当時年中行事) (同) 28 **おゆに**〔公家・大聖・女官〕 (関) 30 **おゆのした**(湯の子)〔女重・女中・女言・女詞・女万〕
- 32 **おじや** 雑炊〔女重・女中・女言・女詞・大聖〕 (関) 58 **おみそう**(「おみそうず」の略, 味噌汁の雑炊, 七草には, 七草のおみそうというのがある。)[ゆどの、(例) 御みそうの御いわるあり。(ゆどの慶 3・1・7) 34 **おみそ**(同左)〔大上・貞丈・女詞〕 35 **おみぞいり**(同左)〔宝鏡〕 36 **おみみ**(同左)〔女中・女言〕
- 37 **おながもの** うどん〔女中・女言・女詞〕 (同) 38 **おわりもの**〔女中〕 39 **しらきん**〔女中・女言・女詞〕
- 40 **おなめし** 粟〔日ボ・女重・女中・女言・女万〕 (同) 41 **おみなめし**〔日ボ〕

- 42 **おはのめし** 菜飯 [女中・女言・女詞] (同) 42-2 **はのぐご** [女重・女詞・女礼] 43 **おみなえし** [女重・女万]
- 44 **おぼん** (45 **はん**) めし(飯) [ゆどの・女中・女言・女詞・女官・大聖] (例) この御所にひるばかりみなおぼん一人づゝまいらせ候。(ゆどの天正7・5・3) (解) 宮中では、お上のものは、44-2 **ごぜん** (ゆどの) (例) 御ぜんの一のうねめ [ゆどの文14・1・14], 尼門跡では、自分のものは「はん」, 神仏に供えるものは「ごぜん」, ゴゼン(尼門跡)のものは「おぼん」という。(同) 46 **おだい** [貞丈] 加賀・越中・武蔵の南岸でも [物類称呼] 47 **おだいくご** [大上・女官] 48 **くご** [海人・ゆどの・女中・女言・女詞・貞丈・女万] くご [日ボ・草・女礼] [草] に飯を供御といふ。おほやけにたてまつるをこそさいふめれ、ただ人の料にしもいふよ、いとも恐こき。(例) じゆごう。女御。女中しゆく御あり。[慶3・3・4] (解) 天皇の飲食物の称にもとづく。「物類称呼」に昼食の畿内方言 49 **オゴゴ** [あれみなおここの時分ぢや。(双は氷の朔日)], 飯の東国方言の 50 **ゴゴ**は、くごよりきたものと。51 **おなか** [大上・女官] 52 **まま** [女礼, (解) うまうまのうを省いたもの [於路加於此, 下, 天保]] 53 **めめ** [日ボ]
- 54 **おひやかし** ほしい(干飯) [女中・女詞] (同) 55 **ほもじ** [ゆどの・公家・大聖] (例) むろまちどのよりほもじまいる。[ゆどの文9・7・2]
- 56 **おひらのすもじ** 鯛鮓 [ゆどの] (例) じゆごうより御ひらのすもじまいる。[ゆどの慶3・2・27] (解) おひらは鯛, すもじは鮓の御所ことば。
- 57 **おふたたき** 二度たきの飯 [公家・大聖]
- 58 **おみそう** お雑煮, みそ汁の雑炊, こながき [ゆどの] (例) あさ御さかづきおなじ。御みそうまいる。[ゆどの文14・1・7] (同) 59 **ほうぞう** [貞丈・公家] (例) 年の暮れに祝義とて、餅に鳩を添へて一首よみておくられるに、狂歌そへて給はる。鳩の岑ほうざう坊の風もちて [拾遺家土産] (解) ほうぞうは保蔵・烹雑。
- 60 **おむすび** (61 **むすび**) にぎり飯 [静・大聖]
- 62 **およなが** 夜食 [女中・女詞・大聖] (例) およながを上げまして [大聖] (解) 「浜荻」に江戸のヨナガと仙台のユウナガとを対している。今でもオユナガ(岩手)・オヨナガ(加賀)・ヨウナゴ(甲斐・静岡)・ヨナガ(岩手・越中・加賀)・ヨナカリ(広島)・ヨナガリ(鳥原・日向)・ヨナガレ(豊後・日向・種子ヶ島)という。動詞として, 63 **およなる** [女言], 64 **ゆうなる** [女中・女言] がある。
- 65 **おやき** 焼餅 [女中・女言・女詞, 津軽] (解) ひしはなびらを焼いたもの。(同) 66 **おやきがちん** [ゆどの・女中・女言・女詞, (例) おやきがちんまいる。(ゆどの貞3・1・1)]
- 67 **かきがちん** かき餅 [公家] (同) おかき [公家・女官]
- 68 **かちん** (69 **おかちん**) 餅 [海人・大上・ゆどの・日ボ・大聖日記・宝鏡日記・女重・女中・女言・女詞・草・女礼・女万・静・公家・女官・大聖・宝鏡] (例) こがねのふねにかちん入たるまいらせらる。[ゆどの文14・2・28] おかちんをあもじでひどっておくれ。[大聖] (解) 「おかちん」は一般語になっている。語源としては, ①搗飯説 [新井白石, 貞丈] 春杵でかついて作った。

- ②かちん色の帽子または着物をきた女が売りに来た。〔林羅山〕 ③歌賃説。歌の力により功德があったので、餅をついて祝った。④かたくなった餅の意(対島方言でも)等の説がある。餅は年中行事や吉凶その他の行事と深い関係にある。(例)どんげ院より御いのこのかちん一ふたまいる。〔慶 3・11・19〕本院の御かたより御みゝふさぎの御かちんまいる。〔ゆどの貞 3・12・2〕(同) 70 **あも**〔物類称呼・浪花聞書〕
- 71 **こおりがちん** 氷餅〔ゆどの・静〕(例)じゆごうよりこほりがちんまいる。〔ゆどの慶 3・6・1〕(解)寒水にさらして凍らせた餅。6月1日に食べる。〔後水尾院当時年中行事〕
- 72 **ことのばら** おしずし(押鮎)〔女重〕(363参照)(関) 73 **かわのすもじ** 竹の皮で包んだ鮎か〔ゆどの〕(例)どんげ院殿より河のすもじまいる。〔ゆどの慶 3・7・3〕
- 74 **こわくご** おこわ・赤飯〔ゆどの・女重・女万・公家・女官〕(例)御こわくごの後三こんまいる。〔ゆどの文 14・1・1〕(同) 75 **こわめし**〔貞丈〕 76 **おこわ**〔女中・女言・女詞〕(解)「おこわ」は一般語として用いている。76-2 **あかきおこわくご**〔ゆどの〕(例)上らふよりあかき御こわく御一御かはらけまいる。〔ゆどの天正 7・8・6〕 77 **あかこわいい**〔女札〕
- 78 **さくず** こぬか(小糠)〔女中・女言、岩手・宮城・福島・佐賀〕(同) 79 **まちかね**〔女重〕(解)来ぬか来ぬかとまちかねるより〔醒睡笑二〕
- 80 **しそのすもじ** しそずし(紫蘇鮎)〔ゆどの〕(例)林丘寺の宮よりしそのすもじまいる。〔ゆどの慶 3・2・27〕
- 81 **すもじ**(82 **おすもじ**)〔大上・ゆどの・女中・女言・女詞・貞丈・静・公家〕(例)北こうじ殿よりすもじまいる。〔ゆどの文 14・4・4〕(解)一般語になっている。
- 83 **そもじ** そば(蕎麦)〔静・公家・大聖〕(同) 84 **あおい**〔大上・貞丈・女官〕 85 **みかど**〔日ボ・女中・女言・女詞〕(関) 86 **うすずみ**(そばの粥)〔大上・女重・女中・女言・女詞・貞丈・公家〕
- 87 **ぞろ** そうめん〔大上・日ボ・女重・草・公家・大聖〕(解)ぞろはぞろぞろの下略語。(同) 88 **ぞろぞろ**〔ゆどの・公家〕(例)あつきぞろ〜一物にて御さか月まいり。はてゝおりの物にて一こんまいる。〔ゆどの文 17・2・7〕(解)ぞろぞろは食するときの感触から命名〔草〕。ゾロ〔信濃・美濃・豊後〕, ゴロゴロ〔米沢・上総・佐渡・出雲・肥後〕と幼児語でいう。 89 **いともの**〔女中・女詞・女万〕 90 **いれぞろ**〔女万〕 91 **ぎんし**〔日ボ〕 92 **しろいと**〔女言・女詞〕 93 **ほそもの**〔海人・大上・女中・女言・女詞〕(関) 94 **きり**(きり麦)〔女重・女中・女詞・女万〕 95 **きりぞろ**(きり麦)〔大上・日ボ〕 96 **つめたいぞろ**〔ひや麦〕〔大上・貞丈〕 97 **ひやぞろ**(ひや麦)〔公家〕 98 **おひやぞろ**(ひやしそうめん)〔女中・女詞〕
- 99 **たけのおばん** 筍飯〔公家・大聖・宝鏡〕
- 100 **たけのすもじ** 筍鮎〔ゆどの〕(例)たけのすもじまいる。〔ゆどの文 14・6・30〕
- 101 **つきよ** いいずし(飯鮎)〔ゆどの・女中・女言・女詞・女万〕(例)あなたよりもつきよまいる。〔ゆどの貞 3・4・11〕
- 102 **はすのくご**〔ゆどの〕(例)はすのくごとし〜のごとし。〔ゆどの文 14・7・18〕

- (解) もち米の蒸したものを蓮の葉でつつんだもの。
- 103 **ばらのすもじ** ばらずし [大聖]
- 104 **ひるくご** 昼食 [女重・女中・女言] (同) 105 **おひるくご** [女詞] 106 **おこし** [女中]
- (解) 雑兵はおこしのような飯を食ひ(前句合, 宝暦10年) 107 **おひるこし** [女中]
- 108 **ひしはなびら** 菱餅 [ゆどの・大聖日記・宝鏡日記・公家・大聖・宝鏡] (例) 四季の間にてひしはなびらのかちんにて御いわみまいる。[ゆどの 貞3・1・1] (解) 菱形に切った餅。御所ではこれを用いる。正月のお雑煮もこの餅です。白い餅に菱形の薄赤の餅を重ねて入れ, 109 **たたきごん** (たたきごぼう) をはさみ, 中の菱とごぼうを食べる。(同) 110 **はなびら** 宮中でいう(伊賀方言でも) 110-2 **ひしがちん** [ゆどの・公家] (例) じゆごうより草のひしがちんまいる。[ゆどの] 111 **おひし** [公家]
- 112 **ふきよせ** 吹寄せ飯 [公家・大聖] 113 **ようか** [日ボ]
- 114 **むもじ** 麦 [日ボ・女万・大聖] 115 **むもじのおぼん** (麦ご飯) [大聖] (同) 116 **あおやぎ** [女中・女言] 117 **とこしえぐさ** [女中・女言・女詞] (関) 118 **ともじ** (小麦) [日ボ] (359・360参照) 119 **からこ** (小麦の粕) [女中・女言] 120 **もみじ** (同左) [女中・女言] 121 **みずのこ** (小麦粉) [公家] 122 **ちりのこ** (米麦を煎ったもの) [公家] 123 **みずのこ** (同左) [女中・女言・女詞] 124 **みずのちりちり** (同左) [公家] 125 **くもり** (同左) [女中・女言・女詞]
- 126 **もろこし** 唐きび [女重]
- 127 **やいば** もみ(粳) [日ボ] (解) 粳の傍の訓読から「やいば」という。
- 128 **やまかけ** こげ飯 [女中・女言・女詞]
- 129 **わりふね** すり糠 [大上・公家]

2. 副 食 物 (総称・豆類・野菜類・漬物類・魚貝鳥獸・その他) (§ 171)

(1) 総 称

- 130 **おまわり** (131 **まわり**) おさい(菜) [海人・日ボ・女官・大聖] (解) 蟹藻屑に「御菜ヲメグリト云 常ニヲマワリト云ハワロシ」, [日ボ] に「まわり」(132 **ヲンマワリ** ガナウテメイワクヂャ), 「太神宮年中行事」に「御廻八種」, 京都市・高松市・長崎市(方言)で「オマワリ」, 沖縄の上流語で「133 **オマワイ**」。(同) 134 **めぐり** (例) 大御ちの人よりめぐりまいる。[ゆどの慶3・8・25] (解) [草] に, 飯のめぐりの意とある。大聖寺では「おめぐり」は使用せず, 「おまわり」を用いる。
- 135 **おしょうじもの** 精進料理 [大上・貞丈・女官] (解) 大聖寺・宝鏡寺で「おしょうじん」という。(関) 136 **おせちみ** [女中・女言, (解) せちみ(節忌) で, 齋日に精進潔齋すること] 137 (同左) **きよまいり** [女中・女言]

(2) 豆 類 (豆類, 豆腐) (§ 172)

- 138 **あか** あずき(小豆)〔大上・ゆどの・日ボ・女重・女中・女詞・貞丈・草・女万・公家・女官・大聖〕(例)上らふよりきんとんにあかの入たるまいる。〔ゆどの天正9・5・15〕(解)〔ゆどの〕では、139 **あかのくご** のような形でよく用いられる。(同)140 **あかあか**〔大上・貞丈〕141 **あかか**〔女官〕142 **あまもの**〔女中・女官〕143 **ありあけ**〔女言〕(168参照)144 **いろのまる**〔女中・女言・女詞〕
- 145 **いと** 豆なっとう〔大上・ゆどの・貞丈・公家・女官・大聖〕(例)みなせよりいとまいる。〔ゆどの文12・4・4〕(同)145-2 **いとひき**(例)かぢ井どのよりいとひきまいる。〔ゆどの明応3・12・24〕(解)江戸初期には、茶の子にも用い、粘りがあって糸をひくところから糸引きという。いとはその下略語。
- 146 **いりいり** いり豆〔女中・女言・女詞・大聖〕(481参照)(解)大聖寺では「あられ」のことも。(同)147 **ほしほし**〔女中・女言・女詞〕
- 148 **うのはな** 豆腐かす〔公家〕(305参照)(同)149 **おから**〔公家・女官・大聖、(解)おからは民間でも〕150 **おかべのから**〔女重・女万〕151 **ゆき**〔女礼〕(258・404参照)
- 152 **おでん**(153 **てん**) でんがく豆腐〔日ボ・女重・女中・女言・女詞・女礼・女万・大聖〕(解)〔日ボ〕には「でん」とある。(同)154 **おわたし**〔女中・女言・女詞〕155 **みだれがみ**〔女中・女言・女詞〕
- 156 **おはのみ** 豆〔女中・女言〕(同)157 **おまめ**〔大上〕(解)大聖寺では、「おまめさん」は、町方の表現だとして用いず、「まめ」という。158 **おめきらし**〔女中・女言〕159 **ほしほし**〔日ボ〕
- 160 **かべ**(161 **おかべ**) 豆腐〔海人・大上・ゆどの・日ボ・女重・女中・女言・女詞・草・女礼・女万・公家・女官・大聖〕(例)みやの御かたの御ちの人よりかべ一ふたまいる。〔ゆどの天正7・9・21〕じゆごうよりかららいかべ一ふたまいる。〔ゆどの慶5・2・4〕品の宮の御方はな。ふ。かべまいる。(解)〔草〕に白かべの色からいうとある。大聖寺では「おかべ」といい、「かべ」を用いない。日向・薩摩方言で「おかべ」という。(同)162 **かべしろもの**〔公家〕163 **しろもの**〔大上〕(224・421参照)(関)164 **あげおかべ**(揚豆腐)〔大聖〕165 **やきおかべ**(焼豆腐)〔公家〕、(解)〔大聖寺では166 **やきかべ**とあって、「やきおかべ」とはいわない〕。
- 167 **ささ** ささげ豆〔大上・女重・女中・女詞・女言・貞丈・女万・女官・大聖〕(450参照)

(3) 青物類(菜・大根・うり・芋など)(§173)

- 168 **ありあけ** 野びる〔女中〕(同)169 **あさつき**〔女中〕(解)葉や茎を食用にする。
- 170 **うのめ** うこぎ(五加木)〔女重・女言・女詞・女万〕(解)姫うこぎの若葉を食用する。
- 171 **おかぼ(かぼ)** かぼちゃ(南瓜)〔公家・女官・大聖〕(解)京都方言でも「おかぼ」、大聖寺で172 **かぼ**とも。
- 173 **おなま** なます(膾)〔大上・日ボ・女中・女言・女詞・貞丈・公家・女官〕(399参照)(解)なますは野菜や魚を材料にした酢のもの。(同)174 **おなます**〔公家・大聖〕(解)京都方言

- でも。175 **おはま**〔公家〕(382参照) 176 **つめたもの**〔大上・貞丈〕(関) 177**おあえもの** (あえもの)〔公家・大聖, (解) 173 **おなま** (なます)とは別で, 味噌が入る。〕 178 **おあえ** (同左)〔宝鏡〕 179 **およごし** (同左)〔女言・女詞〕丹波通辞, 加賀・筑前・佐賀・長崎の方言でも。 180 **みそみそ** (同左)〔大上・貞丈・女官〕 181 **よごし** (同左)〔女中, 磐城・相模・佐渡・肥後・薩摩の方言〕, 「籠耳双紙」に「侍などの詞に聞きにくきは……あへものをよごし」と。 182 **おは** な (菜)〔女重・草・女万・大聖〕(同) 183 **あおも**の〔大上・貞丈・公家・女官〕(関) 184 **やまのは** (大根葉)〔女中・女詞・女官〕
- 185 **かこもり** ところ (野老, やまのいも科の多年生蔓草の根茎)〔女中・女詞〕
- 186 **からもの** (187 **からもん**) 大根〔大上・日ボ・女中・女詞・貞丈・女官・大聖・宝鏡〕(例) からもんとややいもを浮かせまして〔宝鏡〕(解)〔草〕に古くは干したるものをいうとあるから, 干大根のことか。(同) 187 **からもん**〔女重・女言・草・女万・公家〕 188 **おはがた**〔日ボ〕 189**からみぐさ**〔女中・女言・女詞〕(関) 190 **はりはり** (千切大根)〔公家・大聖, 上田市方言〕なお千切大根を漬けたものを京・大阪でいう。(220参照) 191 **ほしからもの** (干大根)〔女万・大聖〕
- 192 **くく** くくたち (菜のとう, 特にすずなのとう)〔大上・ゆどの〕(例) さへものすけよりめいぶつとてくゝ一折まいる。〔慶 5・1・27〕
- 193 **くもじ** 茎〔大上・ゆどの・女重・女万〕(268参照), (例) うちよりくもじなどまいる。〔ゆどの文 15・1・8〕(解) 茎のもじことばで, 町方でも使う。(194・226・268参照)
- 194 **くもじ** にんにく〔女詞・貞丈〕(同) 225 **にもじ**〔大上・日ボ・貞丈・公家・女官〕
- 195 **ごん** ごぼう (午夢)〔大上・ゆどの・女重・女万・女官・大聖〕(例) 四御所へもごんまいる。〔ゆどの延宝 5・1・17〕(解)「ごんぼう」の下略語。(同) 196 **うまふさ**〔女中・女言・女詞・貞丈・公家〕(解) 午房の訓読語か。
- 197 **しろねぐさ** 芋がら〔女中・女言・女詞〕(同) 198 **しろこぐさ**〔女中〕(関) 199 **ふじ** (干した芋がら)〔貞丈〕 藤色からの命名か。
- 200 **せもじ** せり (芹)〔大聖〕(解) 芹のもじことば(同) 201 **ねじろぐさ**〔女中・女言・女詞〕
- 202 **たけ** きのこ〔女中・女言・女詞〕(203・248参照) (解) 方言として, 京都・大阪・奈良・播磨・因幡・石見・備後・大分の各一部で。
- 203 **たけ** たけのこ〔ゆどの・貞丈・公家・女官・大聖〕(例) じゆごうよりたけまいる。〔慶 3・4・19〕
- 204 **ちば** ほしな (干菜, 大根葉をほしたのもの)〔女中・女詞〕(同) 205 **のきしのぶ**〔公家・大聖・宝鏡〕 206 **ひば**〔女重・女中・女言・女礼・女万・大聖〕
- 207 **つく** つくし〔海人・大上・ゆどの・女重・女中・女言・女詞・貞丈・女万・公家・女官・大聖〕(例) 女御よりもつくまいる。〔慶 3・3・27〕 大しやう寺殿よりもつく。御くりまいる。〔ゆどの貞 3・2・20〕 ぶきの宮ノ御かたより梅のはな。つくまいる。〔貞 3・10・12〕(解) つ

- くつくしの下略語。(同) 208 つくつく〔女中〕 209 つちのふで〔女中〕 210 つちふで〔女言〕 211 ちのふで〔女詞〕
- 212 なりのもの うり(瓜)〔女中・女言〕(同) 213 あちうり〔女言〕 214 おうり〔ゆどの、(例)御うり御ふたに入てまいる。(文 10・6・8)〕 215 きんか〔女中・女言〕「物類称呼」にまくわうりを陸中・陸奥の南部で「きんくは」というと。216 なりもの〔女詞〕 217 はびろぐさ〔女中・女言・女詞〕 218 ほそお〔女中〕 219 ほそおの〔女言〕(関) 220 はりはり〔干うり、上田市方言で切干のこと。190参照〕〔女重〕 221 ほりほり(干うり)〔女中・女言・女詞・女万〕 222 こおのうり(味噌づけの白うり)〔貞丈、なお(解)〔ゆどの〕では、223 しろおうりとあり、白うりのことか(例)むろまちどのよりしろ御うりはじめてまいる。(文 17・4・20)〕 224 しろもの(白瓜か)〔ゆどの(例)くはんしゆうじよりならのしろもの御たる一かまいる。〔ゆどの文 17・9・30〕〕
- 225 にもじ にんにく〔大上・日ボ・貞丈・公家・女官〕(同) 194 くもじ〔女詞・貞丈〕 227 くさのもの〔女中〕 228 くさもじ〔女言〕
- 229 じゃく こんにゃく〔大上・女重・貞丈・草・女万・公家・女官・大聖〕(解)室町時代、1月10日には宮中へ進上した。(同) 230 おした〔女詞〕 231 した〔女中・女言〕
- 232 はびろ (233 おはびろ) ちしゃ(萵苣)〔大上・日ボ・女重・女中・女言・女詞・貞丈・女万・公家・大聖〕
- 234 ひとつもじ ねぎ〔大上・貞丈・女礼・公家・大聖〕、近江でも「物類称呼」。(同) 235 うつお〔海人・日ボ〕 236 うつぼ〔女中・女言〕 237 おならし〔女言〕 238 おるは〔女言〕 239 くさみの〔女詞〕 240 くさもの〔女中・女言〕 241 しろね〔ゆどの・女言・女詞、(例)うぢよりくもじ。むめ。しろねまいる。(ゆどの文 15・1・13)〕 242 つおぐさ〔女中・女詞〕 243 ねぶか〔女礼〕 244 ねもじ〔公家・女官・大聖〕
- 245 ふたもじ にら(菰)〔大上・貞丈・公家・女官〕、上総でも「物類称呼」。(同) 246 あさかし〔女言・女詞〕
- 247 まつ まつたけ〔海人・大上・ゆどの・女重・女中・女言・女詞・貞丈・草・女万・公家・女官・大聖〕(例)八わたのたなかまつ二をりまいる。〔ゆどの文 9・9・8〕 むろまち殿より大折の松まいる。〔ゆどの明応 3・9・23〕 正こうみん殿よりまつ一折まいる。〔慶 13・9・28〕 ふしみ殿より松一つみまいる。〔貞 3・9・12〕(解)「草」には「まつたけをまつといふもあさまし」とある。(同) 248 たけ〔大上・女重・女中・女言・女詞・公家〕
- 249 まも 芋〔大上・ゆどの・貞丈〕(例)としこしの御さかづきまめ。まもにて一こんまいる。〔ゆどの延宝 3・12・23〕(同) 250 おいも〔大上・静・女官〕(京都方言でも使用) (関) 251 おさつ(さつまいも)〔女官・大聖〕 251-2 きいも(さつまいも)〔公家〕 252 うこもり(山芋)〔女中・女詞〕 253 きぬかづき(里芋)〔女中・女言・女詞〕(大聖寺では皮のままゆでる芋、衣を被く意から)(339参照) 254 とうなん(唐の芋、里芋の一種)〔女言・女詞〕(285参照) 255 ややいも(小芋)〔公家・大聖〕
- 256 もみじ なす(茄子)〔女中・女言・女詞〕(同) 257 げんじ〔女詞〕

- 258 **ゆき** かぶ(蕪)〔ゆどの・日ボ〕(例)御だいの御かたよりゆき。しろ物のめづらしきおほくまいる。〔ゆどの明応 1・12・12〕(同) 259 **おかぶら**〔女中・女言〕 260 **かぶ**〔日ボ・女官・大聖〕(関) 261 **べにだいこん**(赤かぶ)〔日ボ〕(151・404参照)
- 262 **わら** わらび〔海人・大上・ゆどの・女中・女言・女詞・貞丈・草・公家・女官・大聖〕(例)りしやう院よりわらまいる。〔ゆどの文 14・4・3〕(同) 263 **さんまいぐさ**〔女中〕 264 **みかつぐさ**〔女中〕 265 **やまねぐさ**〔女中〕(関) 266 **くろとり**(ほしわらび)〔大上・女重・女中・女言・女詞・貞丈・女万〕

(4) 漬物類 (§ 174)

- 267 **おしわもの** 梅干〔女言〕(解)皺になっているところからの命名。
- 268 **くもじ**(269 **おくもじ**) 茎づけ〔ゆどの・日ボ・女中・女言・女詞・公家・女官・大聖・宝鏡, 浪花聞書〕(例)うぢのほうをん院よりくもじ二をけ。〔ゆどの文 14・1・9〕きたの、しんまんみんよりとし〜のくもじのおけ〔天正 7・1・16〕北野めうさういんよりこわう。くわんじゆ。くもじのおけまいる。〔慶 3・1・16〕(同) 270 **おはづけ**〔女中・女言・女詞〕(解)方言としては、オクモジ(能登・加賀・播磨・広島・高松・阿波・筑前・佐賀・高原), 271 **オコモジ**(広島) 272 **クキ**(若狭・近江・和歌山・小豆島・長崎市) クモジ(奈良市・和歌山・神戸・播磨・備前・小豆島・阿波・佐賀・長崎市)(関) 273 **すいくもじ**(すぐき)〔公家〕 274 **すいぐき**(すぐき)〔公家〕。(194・226参照)。
- 275 **こりこり** 漬物用の干瓜のことか。〔ゆどの・宝鏡日記〕(例)大聖寺の宮よりこり〜まいる。〔ゆどの貞 2・6・18〕あをうりのこり〜もちてまいる。〔宝鏡日記慶安 2・1・9〕
- 276 **しらいと** たくあん〔女重・女中・女言・女礼・女万〕(同) 277 **おこうこう**〔女言・女詞・静・公家・女官〕 278 **おこうのもの**〔女官〕 279 **おしおづけ**〔女中〕 280 **おつまみ**〔女中・女言・女詞〕 281 **こうこう**〔女重・女中・女言・草・女礼・女万〕 282 **こうのもの**〔女礼〕 283 **こうのふり**〔大上・女官〕 284 **こうもふり**〔公家〕 285 **とうなん**〔女中〕 286 **しんこ**〔女礼〕 287 **ねじねじ**〔女詞〕(関) 288 **あさあさ**(あさ漬)〔大上・ゆどの・女重・女中・女言・女詞・貞丈・女万・女官・大聖, (例)ごんすけ殿よりあさ〜。くもじまいる。〔ゆどの慶 3・2・11〕 289 **ふじのはな**(ささげのついた新香)〔女重〕(479参照) 290 **あかのしんこう**〔女言・女詞〕

(5) 魚貝・鳥獣 (§ 175)

① 魚貝類(総称・海水魚・淡水魚・貝類) (§ 176)

- 291 **あかおまな** 鮭〔日ボ・女重・女中・女言・女詞・貞丈・女万・公家・女官〕(例)むろまちどのよりあか御まなまいる。〔ゆどの文 9・8・20〕のぶながよりはつあか御まな二まいる。〔ゆどの天 7・9・13〕(解)あかおまな(赤御真菜)は赤い魚の意で、鮭・鱒の両義に使った。(同) 292 **あかおなま**〔大上〕 293 **かわつら**〔女中・女言〕 294 **くねつし**〔女中〕(関) 295 **からから**〔大上・貞丈・女官, (解)乾鮭〕(344参照)

- 296 **あかおまな** ます(鱒)〔女重〕(同) 297 **みずのいろ**〔女中・女言〕 298 **みずのくろ**〔女詞〕 299 **はらか**〔女万, 腹赤にもどづくか〕
- 300 **いもじ** いか(烏賊)〔大上・女重・女中・女詞・貞丈・公家・女官〕(例)じゆごうの御かたより御そへおかずとていもじまいる。〔ゆどの慶 3・9・6〕(解)いもじは腰巻もいう。(関) 301 **するする**(するめのことにも, 370 参照)
- 302 **う** うなぎ(鰻)〔公家・女官・大聖〕
- 303 **うきうき** 焼肴(焼きもの)〔大上・女官〕(解)すすり団子のことも(9参照)。(同)
- 304 **おさかな**〔女官〕
- 305 **うのはな** 鮎〔女中・女言・女詞〕(解)鵜のとる魚からの命名か。6月に京都保津川の鮎を朝廷に進上した。
- 306 **うみくさ** あわび(鮑)〔女言・女詞〕(同) 307 **うみつき**〔女中〕 308 **おみおかい**〔女中・女言〕 309 **おみちかい**〔女詞〕 310 **おみなかい**〔女中〕 311 **かいあわ**〔ゆどの, (例)すゑよりがん二。かいあわ一折。ゆき五まいる。〔ゆどの文 14・12・28〕〕 312 **ほそおおい**〔女中・女言〕(関) 377 **つぼみ**(のしあわび)〔女中・女言〕 378 **ほうじ**(同左)〔女言〕 379 **ほそひらめ**(同左)〔女中〕
- 316 **えもじ** えび〔女中・女言・女万・公家・女官・大聖〕(例)じゆごうより御いた。ゑもじまいる。〔ゆどの慶 3・8・30〕(同) 317 **かがみもの**〔大上・貞丈・女官, (解)屈む物の意か〕
- 318 **かいろう**〔女中・女言・女詞, (解)海老の音読〕
- 319 **えもじ** えそ(狗母魚)〔女重・女中・貞丈〕(同) 320 **こんもじ**〔大上・女官〕 321 **しらなみ**〔大上・公家・女官〕
- 322 **おいた** かまぼこ〔大上・貞丈・公家・女官・大聖〕(423参照)(例)じゆごうより御いた。ゑもじまいる。〔ゆどの慶 3・8・30〕(解)かまぼこは板につけてあるからいう。京都方言で
- 323 **いた**という。(同) 324 **おかま**〔日ボ・女中・女言・女詞, (解)おかまぼこの下略語〕
- 325 **おこぶし** さざえ〔女中・女言・女詞〕(解)拳の形からか。
- 326 **おさし** 刺身〔女中・女言・女詞〕(同) 327 **おつくり**〔女官〕(解)おつくりは京都方言でも。327-2 **つくりもの**〔ゆどの〕(例)むろまち殿よりこいのつくり物まいる。〔文 14・7・1〕
- 328 **おぬめり** なまこ(海鼠)〔女中・女言・女詞〕(解)柔軟でぬめぬめしているから, お^{ぬめ}粘りというか。(同) 329 **はなだ**〔大上・貞丈・女官〕
- 330 **おひら** 鯛〔大上・ゆどの・日ボ・女中・女言・貞丈・草・女万・公家・女官・大聖〕
- (例)なかはし御たる一。御ひら一をしきまいらるゝ。〔ゆどの文 9・4・22〕じゆごうより御ひらまいる。〔ゆどの慶 3・1・12〕(解)平たい形からお平という。(同) 331 **おたし**〔女中・女言〕(関) 332 **こひら**(小鯛)〔女重・女言・女礼・女万, (解)こびら〔女中〕と濁ってある〕
- 333 **おむら** いわし(鯛)〔女中・女言・女詞・草・女礼・女万・公家・女官〕(解)おむらさきの下略語。(同) 334 **おほそ**〔日ボ・女中・女言, (解)形からお細というか。〕 335 **おぼし**〔女重・女礼〕 336 **おひら**〔女重〕 337 **おむらさき**〔女礼, (解)いわしは群集すると波の色が紫色に見え

- るからの命名か、塩押ししたいわしは紫めくからか〔草〕。338 **かわぼそ**〔女詞〕 339 **きぬかづき**〔大上・貞丈〕 340 **むらさき**〔大上・貞丈・草・公家〕
- 341 **かか** (341-2 **おかか**) かつお(鰹)〔大上・日ボ・女重・女万〕 (同) 342 **おかつ**〔大上・貞丈・女官〕 343 **かつかつ**〔貞丈〕 344 **からから**〔大上〕
- 345 **かか** (346 **おかか**) 鰹節〔女中・女言・女詞・公家・女官〕 (関) 347 **はなかか**(花鰹)〔女言〕 348 **おはな**(同左)〔女言〕
- 349 **かざ** かざみ(わたり蟹)〔大上・貞丈・公家・女官〕
- 350 **かづかづ** 数の子〔女重・女中・女言・女詞・女礼・女万・公家・女官・大聖〕 (同) 351 **かづ**〔草〕 352 **かどのこ**〔女礼, かど(鰺)の子の意〕
- 353 **かため** 平目〔大上・貞丈・女官〕 (例) せうせん院より御ふだ。御なで物。かためしん上。〔ゆどの貞 3・3・14〕 (解) かれいのことともいう。片目であるから名づけた。
- 354 **かため** かれい〔大上〕
- 355 **くちぼそ** かます(鰯)〔大上・日ボ・貞丈・女官〕 (解) 口細はその形から。くちぼそ〔公家—明治天皇御逸事〕とも。
- 356 **くろもの** いりこ(熬海鼠)〔大上・貞丈・女官〕 (解) なまこをゆでて乾したもの。黒物はその色からか。 (同) 357 **りょうりょう**〔公家〕
- 358 **こうばい** このわた(海鼠腸)〔大上・ゆどの・公家・女官〕 (例) むろまちどのよりこうばゐ。五十まいる。〔ゆどの文 14・2・10〕 (この「こうばゐ」は紅梅織の意とも考えられる)
- 359 **ともじ** 鯉〔海人・大上・ゆどの・女中・女言・女詞・草・公家・女官〕 (例) 二でう殿よりこもじまゐる。〔ゆどの文 14・1・19〕 右小寺よりるす事とて。でんかく。あまくこん。こもじまゐる。〔ゆどの天 7・10・19〕 (解) 鯉の文字ことば。淀川の鯉はびわ湖の鮒とともに昔から有名。 360 **ともじ**を乞食の意に使う〔大聖〕, 小麦〔日ボ〕のこととも (同) 361 **ふんしょう**〔女言・女詞〕 (関) 362 **ひのとと**〔女中・女言, (解) 鯉とあるが, 緋鯉のことか〕
- 363 **ことのばら** ごまめ(鱈)・田作〔女重・女中・女言・女詞・女礼〕
- 364 **さいぎょう** にし(螺), あかにし・田にしの類〔女中・女言・女詞〕 (解) 西行法師のように歩き回るからいうか。
- 365 **さもじ** さば(鯖)〔大上・貞丈・公家・女官・大聖〕 (解) 刺鯖(しめさば)・肴・砂糖の意にも。(366・368・369参照)
- 366 **さもじ** 刺鯖(しめ鯖)〔女中・女言・女詞〕 (同) 367 **いろのとと**〔女中・女言・女詞, (解) 色のととの「とと」は魚の意〕
- 368 **さもじ** 肴〔ゆどの・浮世風呂〕 (例) 女御よりさもじまゐる。御ふくまゐる。〔慶 3・7・26〕 鮓^{すし}をすもじ, 肴^{さかな}をさもじとお云ひだから〔浮世風呂・三下一〕
- 370 **するする** するめ〔大上・女重・女中・女言・女万・公家・女官・大聖〕 (解) するめの下略の疊語 (同) 371 **すかすか**〔女詞〕 (関) 372 **たこがみ**(焼きずめ)〔女詞〕 373 **よこがみ**(同左)〔大上・女中・女言・貞丈・女官〕 374 **よどがわ**(同左)〔女言〕

- 375 **たもじ** たこ(蛸) [大上・女重・女中・女言・女万・公家・女官・大聖] (456参照)。(同)
- 380 **てんがい** [ゆどの] (例) かんろじよりなら物とて。てんがい一をしきまいる。[ゆどの明応 1・11・7]
- 376 **ながいおまな** はも(鱧) [貞丈・公家・女官] (解) 形が細長いからの命名。
- 377 **つぼみ** のしあわび [女中・女言] (同) 378 **ほうじ** [女中・女言, 鮑(ホウ)の字の意か]
- 379 **ほそひらめ** [女中・女言]
- 381 **はま** (382 **おはま**) はまぐり(蛤) [大上・ゆどの・女中・女言・女詞・女官] (例) じゆごうよりはま一折まいる。[ゆどの慶 3・1・12] (同) 383 **おあわせ** [女中・女言・女詞]
- 384 **おはた** [女中]
- 385 **ふもじ** ふな(鮒) [海人・ゆどの・女中・女言・女詞] (例) ふもじ。御さかなにてすけ一まいる。[ゆどの文 14・3・9] (同) 386 **おなおし** [女中・女言] 387 **おひらめ** [女言]
- 388 **おひら** [女中] 389 **ふうき** [女言] 390 **やまぶき** [大上・ゆどの・日ボ・女重・女中・女言・貞丈・女万・公家・女官] (例) きくてい山ぶきのすもじ一をしきまいる。[ゆどの文 12・3・6] やまぶきの御ふるまいあり。[ゆどの慶 3・3・20] (解) 鮒の卵子の山吹色なのによるか、山吹は実がないので鮒の身が少いのによるとも。
- 391 **まな** (392 **おまな**) 魚 [大上・ゆどの・日ボ・貞丈・静・公家・女官・大聖] (例) 大納言よりとしへの御あふぎ。御まな三色まいる。[ゆどの文 14・1・4] じゆごうの御かたより御まなまいる。[ゆどの慶 3・3・13] 千種大なごんより御まな一折しん上。[ゆどの貞 3・1・8] (解) 魚・肴をまな(おまな)という。「まな」は真菜にもとづく。[貞丈] (飲食之部) に「女の詞に魚をまなと云 真菜也なとはさいの事也 今も京の話に鮓魚をすしなと云 又魚屋をなやと云もなほ魚の事也 魚類のさいを真菜と云」と。なお大聖寺では魚屋を 392-2 **おまなや**という。(同) 393 **おさかな** [大上・静] 394 **とと** [日ボ・女重・女中・女言, (例) [運歩色葉集] に「倭国小兒呼魚曰斗々」(解) 京都方言幼児語に現用) 幼児語の借用。 395 **こん** (肴, コンは喉の転音) [ゆどの, (例) 御ゆづけ。こん。一物など三こんまいる。[文 14・2・19]] つねの御所にて。まん。かべのこんにて二こんまいる。[貞 3・7・4] (449参照) (関) 291 **あかおまな** (鮭・鱒) 397 **しろきおまな** (白身の魚) [ゆどの] 376 **ながいおまな** (はも) 399 **おなま** (生魚) [榎垣氏の「隠語辞典」, 室町時代語] 400 **むしづけのおまな** (みそ漬けの魚) [静]
- 401 **みずのはな** すずき(鱸) [女中・女言・女詞] (解) 水の花は尾花のすずきに掛けていうからか。
- 402 **ややとと** じゃこ(稚魚) [静・公家・女官・大聖] (解) 「やや」は小さい意の京都方言
- 403 **ゆかり** にしん(鰯) [公家・大聖]
- 404 **ゆき** たら(鱈) [大上・日ボ・女言・女詞・貞丈・公家・女官] (例) すゑよりがん二。かいあわ一折。ゆき五まいる。[ゆどの文 14・12・28] (解) 雪の御真菜の下略語。かぶ(蕪)を「ゆき」(258参照)とも。(同) 405 **おさかわし** [女中] 406 **ゆきのいお** [日ボ, (解) 雪の魚] 407 **ゆきのおまな** [女重・女万, (例) ゆきのおまなすへよりまいる。[ゆどの文 9・11・16]

408 ゆきのした〔女中・女言〕 409 ゆきのとと〔女詞〕

② 鳥 獣 (§ 177)

- 410 おおとと 鯨〔女中・女言・女詞〕(解)大魚の意から。
 411 かるこ かも(鴨)〔女中・女言・女詞〕
 412 くろおとり がん(雁)〔大上・公家・女官〕(解)雁の進上が〔ゆどの〕にしばしば出る。
 413 けりけり けり(鳧)(例)じゆごうよりけり〜まいる。〔ゆどの慶 3・12・13〕

3. 調味料(味噌・醤油・塩) (§ 178)

- 414 あまむし ひしお(醬は近世では、なめ味噌の一種)〔女重・女中・女詞・女礼・女万〕(同)
 415 あまぼし〔女言〕
 414-2 おしたじ 醤油〔女中・女官・大聖・宝鏡, 近江八幡〕(同) 414-3 おひたじ〔女中・女言・女詞〕 414-4 むらさき〔女官〕
 416 くさおす 柚の酢〔大上・貞丈〕。もと臭柑の酢で、「くさ」は「臭」を訓読したものか。
 417 くだもの こうじ〔貞丈〕
 418 ささじん 糠みそ〔日ボ・女重・女中・女言・女詞・女礼・女万〕(同) 419 わかむし〔女中・女言・女詞〕
 420 さもじ 砂糖〔榎垣氏「隠語辞典」に江戸時代女房詞〕
 421 しろもの (422 おしろもの) 塩〔海人・大上・日ボ・女中・女言・草・公家・女官・大聖〕
 豆腐・白瓜・白い物の意にも使う。(163・224参照)。「大聖」では「お」をつけて現用。
 (同) 423 おいた〔日ボ〕 424 おいたみ〔大上・貞丈〕 425 おいたもの〔宝鏡〕 426 なみの
 はな〔女重・女中・女言・女詞・女万・女官〕(関) 427 やきおいた(焼塩)〔大上・貞丈〕 428 や
 きしろもん(焼塩)〔大聖〕
 429 むし (430 おむし) 味噌〔海人・大上・日ボ・女重・女中・女言・女詞・草・女万・公家・
 女官・大聖〕(解)〔大聖〕では「お」をつけて現用。〔草〕に蒸して造るからいうかとある。ム
 シまたはオムシと近畿・岡山・四国・岐阜・福井の各方言でもいう。(同) 432 こう〔日ボ〕
 433 こうのみず〔大上, 汁のしたりの味噌〕 434 ひぐらし〔女中・女言・女詞・貞丈〕(関) 435
 いろのみず(味噌汁)〔女中・女言・女詞〕 436 おつけ(同左)〔女中・女詞・草〕 437 おみおつ
 け(同左)〔公家・女官・大聖, 近畿・愛知方言〕 438 おむしのおつゆ(同左)〔公家〕 439 たれ
 みそのしる(同左)〔貞丈〕, 440 むしづけ(おむしづけ)(味噌づけ)〔静・大聖〕 441 おむしあ
 え(味噌あえ)〔大聖〕, 442 しぎつぼ(柚みそ)〔女中・女言・女詞〕 443 ゆむし(柚みそ)〔大聖〕

4. 嗜好品(酒・茶・たばこなど) (§ 179)

- 444 あまくこん 甘酒〔ゆどの・女重・女中・女言・女礼・女万・大聖〕(例)わか宮の御かた

よりあかき御こわく御と。あまくこんまいる。〔ゆどの天正 7・3・6〕 上下の御くろよりあま九こん。かう〜。御まなしん上す。〔ゆどの貞 3・8・1〕 (解) 甘九献は甘い酒の意。大聖寺では、445 **あまっこん**ともいい、愛飲される。(同) 446 **あまおっこん**〔公家・女官〕

- 447 **くこん** 酒 〔海人・大上・ゆどの・日ボ・女重・女中・女言・女詞・草・女礼・女万・女官・大聖〕 (例) ゑしやう院御やうの事ありてめす。くこんなとたふ。〔ゆどの文 14・7・4〕 花のもとにてにわかにくこん事あり。〔ゆどの天正 7・3・6〕 奥には酒をとり調べ、九献を一ツきこし召せとて〔大藏狂言、花子〕 (解) 九献。こん(献)は献盃で盃ごと。それから酒のことに。(同) 448 **おっこん**〔静・公家・女官〕 449 **こん**〔ゆどの、(例) ひむがしのとうるんどの御まいる。御たるいつものごとし。こん三こん。〔ゆどの文14・1・22〕 (解) 九献の上略語〕 450 **ささ**〔ゆどの・女中・女言・女詞・草・女官、450-2 **いなか** (例) 御みやげいなか一か。〔文 14・11・2〕 (関) 451 **おきじ** (雉子酒、元旦の供御にした。雉子の代わりに、焼豆腐を用いることもある。)〔公家・女官・大聖〕 452 **きじのこん** (同左) 453 **ささのみ** (酒の粕)〔日ボ〕 4 54 **やなぎ** (酒だる)〔三ぼう院より折五こう。やな木五かまいる。〔ゆどの文 14・2・14〕

455 **せんもじ** せんじ茶 〔女中・女言・女詞〕

456 **たもじ** たばこ 〔女中・女言・女詞〕(375参照)

457 **ねりくこん** 白酒 〔女中・女言・女詞・静・公家・大聖〕 (解) ねり九献 (同) 458 **ねりおっこん**〔公家〕 459 **ねりっこん**〔大聖〕 460 **しろきくこん**〔貞丈〕 461 **しろざさ**〔公家〕

5. 菓子・果物など (§ 180)

462 **あかぞろ** 煮た小豆に砂糖をかけて食べるもの 〔大聖〕

463 **あかのかちん** 小豆あんをつけた餅 〔ゆどの・女重・後水尾院当時年中行事・女万・静〕

(例) どんけみん殿よりあかきかちんいろ〜まいる。〔ゆどの慶 3・8・6〕 けふよりのちはあしたの物には、あかのかちんなど奉る、今日も御粥を供す。〔後水尾院当時年中行事 1月16日〕

(解) あかは小豆、かちんは餅の御所ことば。大聖寺では、あかのおかちんを現用。ご誕生日の陛下用を 464 **おべたべた**、宮様・摂関用をこいただきという由。(同) 465 **あんかちん**

〔女重・女万・静〕 466 **こいただきのかちん** [(例) みやの御かた御しやうたんじやう日にて。こいたゞきのかちん。御てうしひさげ女御よりまいる。〔ゆどの慶 6・6・4〕] 467 **べたべたのかちん** 〔ゆどの・貞丈、(例) 御いわみいつものごとくべた〜のかちんにて一こんまいる。〔ゆどの慶 6・2・15〕

468 **やわやわ**〔女中・女言・女詞・草・女官・大聖〕 469 **よふね**〔女中・女詞〕 (関) 470 **きなこかちん** (黄粉を付けた餅)〔女重・女万〕 471 **くさのかちん** (草餅・よもぎ餅、3月3日の節句に用いる)〔女重・女中・女言・女詞・女礼・大聖〕 472 **くりのかちん** (栗餅)〔ゆどの・大聖、(例) 御ちの人よりくりのかちん一ふたまいる。〔ゆどの天正 7・8・23〕 (解) 後水尾院当時年中行事に 1月20日に食すとある〕。

473 **いしいし** 団子 〔女重・女中・女言・女詞・女万・公家・女官・大聖、柳樽〕 (例) いし〜を食べて明石へ書きかゝり〔柳樽〕 (解)〔公家〕には「いしいし」、「おいしいし—明治

- 天皇御逸事」とあり将軍家でも「おいしいし」といったが、大聖寺では「いしいし」を現用。「いし」は「おいし」の「いし」か。方言でイシ〜（播磨）（「物類称呼」に尾張で丸い団子を平めたものとある）474 **イシシ** 475 **イシ**（伊勢）（美濃）（同）476 **まるまる**〔女中・女言・女詞〕（関）476-2 **よもぎのいしいし**（よもぎ団子）〔大聖・宝鏡〕9 うきうき（すすり団子）〔女詞〕、（白玉）〔公家〕10 うきふ（すすり団子）〔女言・女詞〕、（解）山本格安の「尾張方言」（寛延）に「うきふ 米粉の団子を小さくつくり赤小豆にて煮るをいふ」とある。盛岡でもいう〕479 **ふじのはな**（小豆の団子）〔女中〕480 **ささのつくもち**（同左）〔女万〕
- 481 **いりいり** 豆の入ったあられ〔公家〕（解）い（煮）るの疊語、大聖寺では「あられ」のことに現用。
- 482 **いろのこ** 豆の粉、黄粉〔女中・女言・女詞〕（解）黄粉の色による命名。
- 483 **えもん** 柏餅〔女中・女言・女詞〕（解）平安時代に柏木は衛門督の異名であったからの命名か（柏餅は衣紋のように柏の葉で包むからかとも）。（同）484 **おさすり**〔女中・女言・女詞〕
- 485 **おすすり** こしあんのお汁粉〔大聖・宝鏡〕
- 485-2 **したひと** 干菓子〔女中・女言・女詞〕
- 486 **じゅく** 熟柿〔大上・ゆどの・貞丈〕（例）御ちの人よりじゅく一おりまいる。〔ゆどの明応4・2・1〕（解）熟柿の下略語（関）487 **おさきたたれ**（さわし柿）〔女重・女中・女万〕
- 488 **ばっか** 葛水〔女中・女言・女詞〕
- 489 **まき** ちまき（粽）〔大上・ゆどの・女重・女万・公家・女官・大聖〕（例）いつものまき五。てらちごまいらす。〔ゆどの女14・5・4〕大御乳人おき御みやとてまき一ふたまいる。〔ゆどの慶3・6・14〕女一の宮ノ御かたへ御みまいにまきまいる。〔ゆどの貞3・1・16〕（解）ちまきの上略語。後水尾院当時年中行事に端午の節句のあしたのものに粽を供すると。
- 490 **まん** 饅頭〔大上・ゆどの・日ボ・女詞・女万・女官〕（例）上らふへまん。御こぶ。御てうし色〜まいらせらるゝ。〔ゆどの天正7・5・7〕どんけみん殿よりびぶつ二百疋。まん一折まいる。〔ゆどの慶3・7・19〕勸修寺宮よりまんの折。こんぶまいる。〔ゆどの貞3・6・7〕（解）まんじゅうの下略語。〔静・公家〕に「おまん」とあり、大聖寺でも「お」をつけて現用。（関）491 **おおまん**（大饅頭）〔女重・女言〕

6. その他 (§ 181)

- 492 **おしる** 汁〔大上・貞丈・女官・大聖〕（解）一般にもいう。（同）493 **おかけ**〔女中〕
- 494 **おつけ**〔日ボ・女中・草〕（関）495 **つゆのおつけ**（ずいき汁）〔女重・女中・女言・女詞・女万〕
- 496 **ふじのしる**（芋の茎に小豆汁）〔女中・女詞〕〔497 **ふるみずのしる**（きらず豆腐の汁、卵の花汁）〔女言・女詞〕498 **やまぶきのおつけ**（干大根によめなの汁）〔女中・女言〕
- 499 **おひや** ひや水〔草・女官・大聖〕（解）一般語になっている。（同）500 **おひやし**〔女官〕
- 501 **のもじ** 海苔〔ゆどの・女重・女言・女詞・女万・公家〕（例）やうめいみんすきはら十

帖。のもじまいらす。〔ゆどの文 14・1・13〕 (解) 各文献はかな書きであるので、海苔か糊か判明しないが、〔女重〕には食物の部にあり、ゆどの上掲例文(進上物)「あをのもじ」などによって、海苔と推定した。大聖寺では「のもじ」は糊の意に現用(海苔は「のり」という)。

502 **びぶつ** 美物。結構な食べ物〔ゆどの〕(例) ふしみ殿へびぶつ□色。二かまいる。〔文 14・1・28〕

503 **ひろめ** こんぶ(昆布)〔女言〕

〔付〕 五十音順 索引 (1 飯食物の部)〔数字は各見出語の番号〕 (§ 182)

あ	あおい	84	いなか	450-2	おかがみ	21	おそなえ	22
	あおも	183	いもじ	300	おかけ	493	おだい	46
	あおやぎ	116	いりいり	146, 481	おかちのめし	19	おだいご	47
	あか	138	いれぞろ	90	おかちん	69	おたし	331
	あかあか	140	いろのこ	482	おかつ	342	おつくり	327
	あかか	141	いろのとと	367	おかま	324	おつけ	436, 494
	あかおなま	292	いろのまる	144	おかべ	161	おっこん	448
	あかおまな	291, 296	いろのみず	435	おかべのから	150	おつまみ	280
	あかこわいい	77			おかぶら	259	おでん	152
	あかぞろ	462	う		おかぼ	171	おなおし	386
	あかねのめし	2	う	302	おかゆ	27	おなか	51
	あかのおぼん	1	うきうき	9, 303	おから	149	おながもの	37
	あかのかちん	463	うきふ	10	おきじ	451	おなま	173, 399
	あかのくご	139	うこもり	252	おくま	14	おなます	174
	あかのしんこう	290	うすずみ	86	おくもじ	269	おなめし	40
	あげおかべ	164	うちまき	11	おげんじょ	24	おならし	237
	あさあさ	288	うつお	235	おこうこう	277	おぬめし	328
	あさがお	4	うつぼ	236	おこうのもの	278	おねばりの	
	あさかし	246	うのはな	148, 305	おごご	49	おうわゆ	18
	あさつき	169	うのめ	170	おこし	106	おは	182
あちうり	213	うまふき	196	おこぶし	325	おはがた	188	
あまおっこん	446	うみくさ	306	おこもじ	271	おはた	384	
あまくこん	444	うみつぎ	307	おこわ	76	おはづけ	270	
あまっこん	445			おさかな	304, 393	おはつお	15	
あまぼし	415	え		おさかわし	405	おはな	348	
あまむし	414	えもじ	316, 319	おさきたたれ	487	おはのみ	156	
あまもの	142	えもん	483	おさし	326	おはのめし	42	
あも	70			おさすり	484	おはびろ	233	
あゆのすもじ	7	お		おさつ	250	おはま	175, 382	
あらいよね	13	おあえ	178	おしおづけ	279	おぼん	44	
ありあけ	143, 168	おあえもの	177	おした	230	おひし	111	
あわのはん	8	おあかのめし	3	おしたじ	414-2	おひたじ	414-3	
あんかちん	465	おあさのもの	16	おしたまじりの		おひや	449	
		おあわせ	383	おうわゆ	29	おひやし	500	
		おいた	322, 423	おしとぎ	23	おひやかし	54	
		おいたみ	424	おじや	32	おひやぞろ	98	
い		おいたもの	425	おしょうじもの	135	おひら	330, 336	
いし	475	おいも	250	おしる	492	おひらのすもじ	56	
いしし	474	おうり	214	おしろもの	422	おひらめ	387	
いしいし	473	おうわゆ	17	おしわもの	267	おひるくご	105	
いた	323	おおとと	410	おすすり	485	おひるこし	107	
いと	145	おおまん	491	おすもじ	82	おふたたき	57	
いともの	89	おかか	346	おせちみ	136			

御所ことば語彙の調査研究

おべたべた	464	かぼ	172	こうばい	358		
おほそ	334	からから	295, 344	こうもふり	284	せ	
おぼそ	335	からこ	119	こおのうり	222	せんもじ	455
おまな	392	からもの	186	こおりがちん	71		
おまなや	392-2	からもん	187	ごご	50	そ	
おまめ	157	からみぐさ	189	ごぜん	45-2	そもじ	83
おまわい	133	かるこ	411	ことのぼら	72, 363	ぞろ	87
おまわり	130	かわつら	293	こひら	332	ぞろぞろ	88
おみおかい	308	かわのすもじ	73	こもじ	118, 359, 360		
おみおつけ	437	かわぼそ	338	こりこり	275	た	
おみそ	34			こわくご	74	たこがみ	372
おみそう	58	き		こわめし	75	たけのおぼん	99
おみぞいり	35	きいも	251	ごん	195	たけのすもじ	100
おみちかい	309	きじのこん	452	こん	395, 449	たたきごん	109
おみなえし	43	きなこかちん	470	こんもじ	320	たけ	202, 203, 248
おみなかい	310	きぬかずき	253, 339			たもじ	375, 456
おみなめし	41	きよまいり	137	さ		たれみそのしる	439
おみみ	36	きり	94	さいぎょう	364		
おむし	430	きりぞろ	95	ささ	167, 450	ち	
おむしあえ	441	きんか	215	ささべ	25	ちのふで	211
おむしのおつゆ	438	ぎんし	91	ささじん	418	ちば	204
おむすび	60			ささのみ	453	ちりのこ	122
おむら	333	く		ささのつくもち	480		
おむらさき	337	くき	272	さしず	78	つ	
おめきらし	158	くく	192	さもじ	365, 366	つおぐさ	242
おやき	65	くご・ぐご	48		368, 420	つきよ	101
おやきがちん	66	くこん	447	さんまいぐさ	263	つく	207
およごし	179	くさおす	416			つくつく	208
およなが	62	くさのかちん	471	し		つくりもの	327-2
およなる	63	くさのもの	227	しぎつぼ	442	つちのふで	209
およね	12	くさみの	239	しそのすもじ	80	つちふで	210
おゆのした	30	くさもじ	228	した	231	つめたいぞろ	96
おゆに	28	くさもの	240	したひこ	485-2	つめたもの	176
おるは	238	くだもの	417	じゅく	486	つぼみ	377
おわたし	154	くちぼそ	355	しらいと	276	つゆのおつけ	495
おわりもの	38	くねつし	294	しらきん	39		
おんまわり	132	くもじ	193, 194, 268	しらなみ	321	て	
		くもり	125	しろいと	92	でん	153
か		くりのかちん	472	しろおうり	223	てんがい	380
かいあわ	311	くろおとり	412	しろきおまな	397		
かいろう	318	くろとり	266	しろきくこん	460	と	
かか	341, 345	くろもの	356	しろこぐさ	198	とうなん	254, 285
かがみもの	317			しろざさ	461	とこしえぐさ	117
かきがちん	67	け		しろね	241	とと	394
かこもり	185	けりけり	413	しろねぐさ	197		
かざ	349	げんじ	257	しろもの	163, 224, 421	な	
かず	351			しんこ	286	ながいおまな	376
かずかず	350	こ				なみのはな	426
かため	353, 354	こいただきの		す		なりのもの	212
かちん	68	かちん	466	すいぐさ	274	なりもの	216
かつかつ	343	こう	432	すいくもじ	273		
かどのこ	352	こうこう	281	すかすか	371	に	
かぶ	260	こうのふり	283	するする	301, 370	にもじ	225
かべ	160	こうのみず	433	すもじ	81	にゃく	229
かべしろもの	162	こうのもの	282				

ね	ひるくご	104	まも	249	やきしろもん	428
	ひろめ	503	まるまる	476	やなぎ	454
			まわり	131	やまかけ	128
			まん	490	やまねぐさ	265
					やまのは	184
					やまぶき	390
					やまぶきのおつけ	498
					ややいも	255
					ややとと	402
					やわやわ	468
の	ふ		み		ゆ	
	ふきよせ	112	みかつぐさ	264	ゆうなる	64
	ふじ	199	みかど	85	ゆかり	403
	ふじのしる	496	みずのいろ	297	ゆき	151, 258, 404
	ふじのはな	289, 479	みずのくろ	298	ゆきのいお	406
	ふたもじ	245	みずのこ	121, 123	ゆきのおまな	407
	ふなやき	6	みずのちりちり	124	ゆきのした	408
	ふのやき	5	みずのはな	401	ゆきのとと	409
	ふうき	389	みそみそ	180	ゆむし	443
	ふもじ	385	みだれがみ	155		
は	へ		む		よ	
	べたべたのかちん	467	むし	429	ようか	113
	べにだいこん	261	むしづけ	440	よこがみ	373
			むしづけのおまな	400	よごし	181
			むすび	61	よどがわ	374
			むもじ	114	よふね	469
			むもじのおばん	115	よもぎのいしいし	476-2
			むもじのしょく	20		
			むらさき	340, 414-4		
ほ	ほうぞう	59	め		り	
	ほうじ	378	めぐり	134, 414-4	りょうりょう	357
	ほしからもの	191	めめ	53		
	ほしほし	147, 159				
	ほそお	218	も			
	ほそおおい	312	もみじ	120, 256		
	ほそおの	219	もろこし	126		
	ほそひらめ	379				
	ほそもの	93	や			
	ほもじ	55	やいば	127		
ま	ほりほり	221	やきおいた	427		
			やきおかべ	165		
			やきかべ	166		
ひ	まき	489				
	まちかね	79				
	まつ	247				
	まな	391				
	まま	52				
	ひぐらし	434				
	ひしがちん	110-2				
	ひしはなびら	108				
	ひともじ	234				
	ひのとと	362				
ひば	206					
びぶつ	502					
ひやぞろ	97					

Researches on the vocabulary of Court lady speech

Part I - Food and drink

Y. Inokuti K. Nakai R. Horii

The vocabulary of Court lady speech registered in this paper is chiefly the words of food and drink. These words are characteristic of the linguistic use in the Imperial palace and in Kyoto Amamonzeki nunnery, where the special words of food and drink have generally been used, as a sort of euphemism, to distinguish from these popular words of our society.